

報道関係者各位

生成AIを「使う」から「業務で回す」へ 現場活用を担う「AI業務支援士」認定試験開始

バックオフィスの実務力を高める人材育成に貢献

IT技術の資格制度の運営と知識普及を行う特定非営利活動法人IT整備士協会(所在地：東京都港区、理事長：家喜 信行、以下「当協会」)は、生成AIをバックオフィスの実務で安全かつ効果的に活用できる人材を育成・認定する新資格「AI業務支援士」を創設し、2026年7月6日（月）より認定試験の申込受付を開始します。「AI業務支援士」は、生成AIツールを単に利用するだけでなく、担当業務の流れを理解した上で業務プロセスに組み込み、さらに運用・改善まで落とし込める人材を認定する資格です。知識偏重ではなく実務力を重視した制度設計になっており、認定講座の修了と試験の合格を必須とする二段階方式により現場で即戦力となるAI人材を認定します。

【背景】生成AIの企業導入は急速に広がっていますが、現場では「何に使えばよいかわからない」「導入効果が見えない」「リスク管理が不安」といった課題が依然として残っています。特に「リテラシー・スキルの不足」を感じる企業が多く、導入しても十分な成果につなげられていないケースが散見されます。当協会はこれまで、パソコン・スマートフォンの整備やクラウド化など実務で生きるITスキルの習得・人材育成に取り組んでまいりました。単純な知識だけでなく、実践的なAI活用スキルを習得することにより、総務、経理、営業、企画、管理部門など、非エンジニア職種の業務にAIを直結させ、効率化や業務の成果につなげることが可能となります。

AI業務支援士認定資格の特徴

AI業務支援士は、「AIを知る人ではなく、成果につなげる人材」の育成・認定を目的としており、非エンジニア職種にとって明確かつ到達可能なリスクリダクションの目標として機能する設計とされています。エンジニア向け資格や経営層向け資格とは明確にターゲットが異なり、「現場でAIを動かす実務者」にとって必要な能力を認定するという特徴があります。基礎的なプロンプトが書けるだけでなく、実務に役立てることができる人材を生み出すことを目的としています。現場担当者が、自らの業務フローにAIを組み込み、運用・改善まで担うための実務力を重視した資格です。

AI業務支援士 資格認定の流れ

認定講座の修了から資格認定まで、3つのステップで実務に活かせるAI活用力を認定



信頼できる認定制度で、実務に活かせるAI人材育成へ

AI業務支援士における学習内容

領域	内容
技術領域	AIの基礎知識、生成AIの仕組み、各種AIツールの特徴などを学びます。
実務領域	プロンプト活用、文章作成、要約、議事録作成、資料作成など、実務に直結する活用方法を学びます。
ビジネスマネジメント	業務自動化、AI導入の進め方、業務プロセスの整理など、組織で活用するための考え方を学びます。
リスク管理	著作権、情報漏えい対策、情報倫理など、AIを安全に活用するために必要な知識を学びます。

スケジュール

- 認定講座受講申込開始：2026年4月27日～（受付中）
- 認定試験申込開始：2026年7月6日（月）
- 試験実施日程・方式：申込受付開始時に詳細発表予定
認定講座申込先（第1号認定研修機関）



特定非営利活動法人 IT整備士協会

理事長：家喜 信行
設立：2002年1月8日内閣府認証
所在地：〒106-0032 東京都港区六本木2-4-5 六本木Dスクエア6階
事業内容：パソコン整備士資格・スマートフォン整備士資格・DX整備士資格および仮想化基礎検定試験の実施・認定、パソコン・スマートフォンの整備および修理・社内DX推進に関する講習会の実施、会報および出版物の発行

IT整備士協会HP：<https://www.it-seibishi.or.jp/>
AI業務支援士資格：<https://www.it-seibishi.or.jp/ai-specialist/>



IT整備士協会
特定非営利活動法人



リリースに関するお問合せ 特定非営利活動法人IT整備士協会 事務局 Mail: assistant@it-seibishi.or.jp